



令和3年7月2日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（6月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和3年6月分）

1. あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と地方創生に関する連携協定を締結
2. 地域デザイン講座特別企画「宮崎大学企業フォーラム くしまアオイファーム編」開催
3. ようこそ後輩の皆さん～現役大学生が母校の高校生に大学の魅力を紹介～
4. 宮崎日機装株式会社から空間除菌消臭装置「Aeropure（エアロピュア）」の寄贈
5. 附属中学校女子バスケットボール部が医療関係者に折り鶴を贈呈
6. 谷口浩美さんが市民向けにランニング指導

1. あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と地方創生に関する連携協定を締結

令和3年6月7日（月）、宮崎大学は、MS&AD インシュランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社と地方創生に関する連携協定の締結式を行った。

同協定は、双方が有する研究シーズや人的資源などを有効に活用して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に資する取組を推進し、地域の更なる活性化を目指すことを目的として締結。



特に、以下の3つの分野を重点に連携を強化していくこととしている。

①防災・災害対策分野

地域住民を対象にした災害対策セミナー、地域企業を対象にしたBCP、タイムライン作成支援セミナーなどの共同開催による地域の防災・災害対策の強化。

②地域振興・地場産業支援分野

スマート物流の活用、MaaS 活用の検討によって、地域の物流・移動における課題の解決に取り組むほか、地場産業である農林水産業振興を目的に宮崎大学の知見とあいおいニッセイ同和損保の補償・リスクコントロール機能を融合させた農林水産業課題へアプローチ。

③人財育成・情報発信分野

あいおいニッセイ同和損保所属アスリートによるパラスポーツ体験、講演会等の活用など、障がい者スポーツ支援の観点からの人財育成・情報発信。

締結式では、石丸宗樹宮崎支店長から協定内容の説明があった後、池ノ上克宮崎大学長から「大学はSDGsのありとあらゆる分野に関連する研究を行っており、それらの成果を大学独自で地域社会に還元することには限界がある。民間企業のスキームやネットワークを活用させてもらいながら、研究成果を積極的に還元して地域に貢献していきたい」と抱負が述べられ、リモートでの参加となった鈴木久仁代表取締役会長からは「自然災害をはじめとする想定外の災害が起こることが日常で、その事態に対応できるように関係機関と連携して準備をすることが重要」と述べられた。

宮崎大学では、今後も産学官連携を強化しながら、産学・地域連携センターを中心に様々な分野で地域課題の解決に資する取組を強力に推進していくこととしている。

2. 地域デザイン講座特別企画「宮崎大学企業フォーラム くしまアオイファーム編」開催

令和3年6月10日(木)、くしまアオイファーム(宮崎県串間市)から池田誠代表取締役会長、奈良迫洋介代表取締役社長および堀内翔斗取締役副社長の3名を招き、宮崎大学企業フォーラムを実施した。地域デザイン棟会場では対面で17名が受講したほか、Zoomを利用したオンライン形式で宮崎県内外の大学生、市民など57名が受講した。



本フォーラムは、本学地域デザイン講座が主催し、本県を拠点に成長を続ける企業などについて学生に知ってもらうことなどを目的に実施するもので、これまでも「旭化成株式会社」「J A 宮崎経済連」「安井株式会社」などの宮崎の地元企業の現役の開発者、研究者、会社幹部などを招き、企業の現実を語る講師を努めていただいている。今回の開催で、2018年からの開催数が9回を迎え、受講者は累計で500名を超えた。

今回は、はじめに池田誠代表取締役会長から、「強い農業はこえていく！そのための挑戦」と題して、宮崎県最南端に地理的ハンディを抱えながらも、2030年までに、売り上げ100億円を目指して新たな事業に挑戦し続ける企業方針について紹介された。また、会社が公の組織となり、真に地域に貢献できる組織を目指して、2代目社長は世襲制ではなくて、社員による選挙で選出したことや、独自の制度「ほんの気持ち手当」により、社内の隠れたキーマンを把握して評価する他の企業にはない特色ある取組が紹介された。

続いて、堀内翔斗取締役副社長から、コロナウィルスの影響による輸出コストの増大やさつまいもの病気である基腐病(もとくされびょう)の蔓延により、大打撃を受けながらも前に進み、「宮崎から、串間市から、世界の未来を変えていく」という信念を持ってグローバル展開をしている状況が説明された。

最後に、奈良迫洋介代表取締役社長から、宮崎大学との共同研究について説明があり、産学連携を加速化させることが企業をささえ、成長させるエンジンになると語られ、質疑応答の時間では、多くの学生から質問が寄せられ、予定時間を大幅に超過するほどの質問が上がり、大盛況のうちに終了した。

本学では、今後も様々な団体と連携しながら各種講座・イベントを企画するとともに、それらをオンライン形式で配信することで、県内の高校生や大学生、一般市民に広く学びの機会を提供しながら、若者の地元定着およびU・I・Jターンを推進していく。

次回は、6月24日(木)に株式会社デンサンを迎えて開催する。

3. ようこそ後輩の皆さん～現役大学生が母校の高校生に大学の魅力を紹介～

令和3年6月18日（金）、宮崎県立飯野高等学校1年生24名が宮崎大学を訪問した。同校は、2019年度から文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に採択され、地域企業や行政等と密接に連携した特色ある教育プログラムが注目を集めており、県外からの入学者も増えている。



今回は、まず同校卒業生である河野一成さん（工学部環境ロボティクス学科4年）が、高校と大学の違いについて、大学生活・日常生活・アルバイトのことなどを交えながらわかりやすく紹介し、高校生からは「高校と大学はどちらが楽しい？」「高校生のうちにどんな勉強をしていたほうがいいのか？」など、沢山の質問が出され、先輩である河野さんが丁寧に答えてた。

続いて、横道政裕准教授（工学部環境ロボティクス学科）が映像などを交えながら工学部の紹介を行い、改組後の新しいプログラムなどについても説明された。

最後に、高校生は2人1組に分かれて、配付された地図を片手に、附属図書館や地域デザイン棟をまわり、最後に集光型太陽光パネルの説明を受けてプログラムは終了。参加した生徒の皆さんは、高校とは全く異なる大学キャンパスの雰囲気を楽しんでいた。

本学では、積極的に大学訪問を受け入れているほか、高校生が取り組む探究活動に対してアドバイザー教員として大学教員を配置して探究を行うにあたっての基本的なことを指導するなど、様々な形で高大連携を強化し、本県の高校教育の更なる充実に貢献していく。

4. 宮崎日機装株式会社から空間除菌消臭装置「Aeropure（エアロピュア）」の寄贈

宮崎日機装株式会社及び日機装株式会社から、新型コロナウイルス感染症対策のため、空間除菌消臭装置「Aeropure（エアロピュア）」（20畳用2台）が本学に寄贈され、令和3年6月21日（月）、西脇章宮崎日機装株式会社代表取締役社長から池ノ上克学長に目録を手渡す寄贈式を執り行った。



寄贈を受けて池ノ上学長からは、「大学の研究成果を社会課題の解決のために還元することは極めて重要であり、このように産学連携による共同研究の成果を活用していただけたことは嬉しい限り。今後も共同研究など連携した取組を継続していきたい」と、西脇社長に対してお礼の言葉が述べられた。

日機装株式会社と本学は、2016年11月に、新技術の共同開発研究によるイノベーションの創出ならびに共同開発研究を通じた人材育成等を目的として共同研究包括連携協定を締結。さらに、令和元年11月には共同研究講座「医療環境イノベーション講座 Collaboration Labo. M&N」を本学医学部に設置し、医療を取り巻く環境、医療に必要な機器に関連する問題などに関する総合的な研究開発に共同で取り組んでいる。

本学では、今後も産学官連携を強力に推進しながら、研究レベルを向上させていくとともに、地域に根差した大学となるように取り組んでいく。

5. 附属中学校女子バスケットボール部が医療関係者に折り鶴を贈呈

令和3年6月21日（月）、本学教育学部附属中学校女子バスケットボール部から、本学附属病院における医療従事者に対する感謝の気持ちを込めた折り鶴が贈呈された。

折り鶴は、新型コロナウイルスの影響を受けて部活動が実施できなくなったことから、同校3年で主将を務める大野心佑来（こゆき）さんの呼びかけで、5月から約1ヶ月かけて製作され、約100羽ずつの折り鶴から成るのれんが13個完成した。



贈呈式には、同校から部員13名のほか、顧問教諭と保護者7名が参加し、附属病院からは鮫島浩病院長、ICU看護師をはじめとする10名が同席し、鮫島病院長から中学生に対して丁寧なお礼の言葉が述べられた。

本学では、新型コロナウイルス感染拡大により、医療現場がひっ迫していた以下3つの地域に看護師を派遣するなど、志の高い看護師の尽力により、他県の医療体制にも貢献している。

大阪府（4名）：令和3年5月6日～6月2日

兵庫県（2名）：令和3年5月18日～6月10日

沖縄県（2名）：令和3年6月11日～7月7日

6. 谷口浩美さんが市民向けにランニング指導

令和3年6月26日（土）、宮崎大学公開講座「フルマラソンを走ろう♪」を実施し、20歳代から70歳代までの23名が参加した。

本講座は、1991年世界陸上男子フルマラソンにおいて金メダルを獲得した谷口浩美（現：宮崎大学教育・学生支援センター特別教授）が講師を務め、座学と実技を交えながら前期3回シリーズで実施し、宮崎県内で最大級のマラソン大会で



ある「青島太平洋マラソン」において、フルマラソン完走を目指す方を対象に実施するものである。

第1回目となる今回は、水口麻子講師（安全衛生保健センター）から健康管理や暑い時期にランニングをするうえでの注意点やコロナ禍における感染症対策・救急救命方法などの説明があり、続いて、谷口特別教授から、フルマラソンを走るために知っておきたい基礎知識について説明があった。

その後、受講生はグラウンドに出て、1,000m～3,000mのインターバル走を行い、小雨が降るなかでも必死に走り汗を流していた。また、受講生は、谷口特別教授が持つ金メダル（1991年世界陸上男子フルマラソン）と、東京オリンピック聖火トーチと一緒に記念撮影を行い、士気を高めた。